牛 肉 情 勢

12月12日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 10月の成牛と畜頭数は、96.0千頭(前年比104.7%)と前年を上回った。 内訳を見ると、和牛:44.4千頭(前年比109.8%)、交雑牛:22.4千頭(同102.6%)、乳牛去勢:11.1千頭(同102.9%)となった。 ○ 11月の成牛と畜頭数は、速報値(11月30日まで集計)で105.5千頭(前年比95.0%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月28日公表)によると、11月の出荷頭数は、全品種で減少が見込まれることから、前年を下回ると予測し、 12月は、乳用種での出荷頭数の減少するものの、和牛、交雑種の増加が見込まれることから前年同月を上回ると予測する。 (11月 108.5千頭(前年比97.3%)、12月 105.4千頭(同106.4%))。 そのため、3か月平均(10月～12月)では、出荷頭数103.1千頭(前年比102.2%)、生産量32.9千ﾄﾝ(同102.7%)と前年を上回る予測となっている。
	2.輸入	○ 10月の輸入通関実績は、全体で40.3千ﾄﾝと前年を下回った(前年比82.9%、前月比108.8%)。 内訳ではチルド:16.8千トン(前年比115.3%、前月比109.4%)、フローズン:23.5千ﾄﾝ(前年比69.1%、前月比108.4%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州が増加し、フローズンは全体的に減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　:豪州8.0千ﾄﾝ(前年比154.0%)、米国7.5千ﾄﾝ(同94.3%)、ニュージーランド0.5千ﾄﾝ(同99.1%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同93.5%)、メキシコ0.2千ﾄﾝ(同68.0%) フローズン :豪州11.1千ﾄﾝ(前年比88.5%)、米国8.1千ﾄﾝ(同58.1%)、カナダ2.0千ﾄﾝ(同55.4%)、ニュージーランド1.1千ﾄﾝ(同88.6%)、メキシコ0.8千ﾄﾝ(同42.2%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドの輸入量は、11月は国内需要の低迷のほか現地相場高騰により米国産輸入量が少ないため前年同月を下回り、12月は需要の低迷に加え豪州産輸入量増加のため上回ると見込んでいる。フローズンは、国内の輸入品在庫量が多く、現地相場の高騰により北米産輸入量が少ないため、11月、12月ともに前年を下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和5年11月　合計:35.6千ﾄﾝ(前年比90.3%)、チルド:15.1千ﾄﾝ(同85.7%)、フローズン:20.5千ﾄﾝ(同94.1%) 令和5年12月　合計:36.4千ﾄﾝ(前年比97.2%)、チルド:15.7千ﾄﾝ(同101.7%)、フローズン:20.7千ﾄﾝ(同94.2%) 直近3か月(10月～12月)平均 合計:37.4千ﾄﾝ(前年比89.3%)、チルド:15.9千ﾄﾝ(同100.0%)、フローズン:21.5千ﾄﾝ(同82.9%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 10月概況	○ 総務省発表の10月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は431g(前年比80.9%)、支出金額が1,621円(同91.1%)となり、 購入量、支出金額ともに前年を下回った。(※2019年度同月比:購入量 90.2%、金額 106.5%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の10月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,271.7億円(前年比102.2%、既存店ベース101.0%)と前年を上回った。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉へ、さらに鶏肉に需要がシフトする傾向が続き、鍋需要の低迷が加わり不調となった。牛肉は相場高で苦戦した店舗が多い。 豚肉は、国産価格の高騰に落ち着きが見られ、小間切れや挽肉など普段使いの商品が好調となった。鶏肉は手頃なむね肉が好調。ハム・ソーセージの加工肉は回復傾向が見られた。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した10月販売概況によると、畜産品の売上は926.3億円(店舗調整後で前年比100.0%)となり、前年並みとなった。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	3.外食 10月概況	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査10月度結果報告によると、人流の回復傾向が続き、円安の影響からインバウンド需要は引き続き旺盛で、全体売上は前年比108.8%、2019年比では116.6%となった。 2019年10月は消費増税や大型台風の直撃で売上不振であったため2019年同月比では大きく伸長した。継続的な物価高から価格改定の動きがある一方、節約志向に合わせた価格訴求型のメニュー施策も見られた。 業態別; ①ファーストフード　前年比107.3%、2019年度比127.0%　季節限定メニューや手頃な価格帯に工夫したメニューが好評で、価格改定による単価上昇もあり、売上は堅調 ②ファミリーレストラン　前年比110.4%、2019年度比111.0%　価格訴求型キャンペーンが好評。焼肉店は店舗減・売上減が見られたが客単価の上昇で売上は堅調 ③ディナーレストラン　前年比110.7%、2019年度比103.4%　特に観光地でのインバウンドによる集客が好調。客数と客単価の押し上げ要因 ④居酒屋　前年比109.1%、2019年度比 67.3%　気温が高めだったことでビール販売が好調。団体や深夜客の利用が少しずつ回復。店舗数の減少は継続
	4.輸出	○ 10月の輸出実績は836.7ﾄﾝ(前年比100.7%)と前年並みとなった。台湾向け(164.0ﾄﾝ、前年比127.2%)、香港向け(162.5ﾄﾝ、前年比106.8%)はともに前年を上回った。 一方で米国向け(65.2ﾄﾝ、前年比65.4%)は前年を下回った。また、カンボジア向け(171.5ﾄﾝ、前年比135.3%)は前年を上回ったが、不安定な状況が続いている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、10月末の推定期末在庫量は150.9千ﾄﾝ(前年比91.5%、前月比96.5%)と前年を下回る。 内訳は、輸入品;137.9千ﾄﾝ(前年比90.8%、前月比96.2%)、国産品;13.0千ﾄﾝ(同99.5%、同100.8%)となり、ともに前年実績を下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、11月末;145.8千ﾄﾝ(同89.6%)、12月末;142.0千ﾄﾝ(同91.3%)と、11月、12月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年11月 速報値	○ 11月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;11月30日時点)は、和牛去勢A5が2,647円(前年比99.9%)、A4が2,250円(同94.7%)、交雑去勢B3が1,524円(同101.2%)、 乳牛去勢B2が791円(同70.9%)であった。
	2.R5年12月 予測	○ 11月は、月前半が東京で最高気温27.5℃を記録するなど暖かい日が続き荷動きは弱含みだったものの、中旬以降に気温が低下したことでスライスなどの鍋物需要等が増加したことに加え、 共励会の開催や年末需要期向けの手当等が重なり和牛・交雑牛ともに強含みとなった。乳牛去勢は輸入牛への回帰や交雑牛への移行などから需要が減退し弱含みとなった。 ○ 12月は、最需要期を迎え量販店等がステーキやすき焼きなどの消費喚起を促し前年並みの売上を目指しているものの、消費者の生活防衛意識が依然高いことやインバウンド需要の拡大には大きな期待が出来ない事などから、和牛・交雑牛ともに保合いでの推移が見込まれる。 乳牛去勢は、輸入牛肉の通関遅れ等により代替需要に期待出来るものの、市中在庫があることから需給は大きく変動せず保合いを見込む。

◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】

	10月実績		11月速報値		12月予測		1月予測	
・和牛去勢 「A-5」:	2,519円	(95.1%)	2,647円	(99.9%)	2,650円	(98.6%)	2,500円	(97.9%)
・和牛去勢 「A-4」:	2,058円	(87.9%)	2,250円	(94.7%)	2,250円	(93.8%)	2,100円	(91.7%)
・交雑去勢 「B-3」:	1,422円	(93.5%)	1,524円	(101.2%)	1,500円	(94.8%)	1,450円	(98.8%)
・乳牛去勢 「B-2」:	828円	(79.5%)	791円	(70.9%)	800円	(77.7%)	750円	(81.3%)

部分肉相場		
1.R5年 12月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】	【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】

【和牛:4等級】		【ホルス:2等級】		【交雑牛:3等級】	
・和牛カタセット(スネなし) :	3,100円	・ホルスカタセット(同) :	1,900円	・交雑牛カタセット(同) :	2,300円
・和牛ロースセット(ヒレなし):	6,000円	・ホルスロースセット(同):	3,000円	・交雑牛ロースセット(同) :	4,450円
・和牛モモセット(スネなし) :	3,800円	・ホルスモモセット(同) :	1,950円	・交雑牛モモセット(同) :	2,350円
・和牛トモバラ :	1,700円	・ホルストモバラ :	1,000円	・交雑牛トモバラ :	1,150円

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計 頭数	和牛計 前年比	交雑牛計 頭数	交雑牛計 前年比	乳牛去勢計 頭数	乳牛去勢計 前年比	成牛計 頭数	成牛計 前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年　7月	45.9	102.3	23.0	107.9	11.2	93.4	95.3	101.3
R5年　8月	37.7	103.5	20.2	103.0	11.2	93.9	85.4	100.1
R5年　9月	40.3	101.8	21.4	103.7	10.7	94.5	89.8	100.4
R5年　10月	44.4	109.8	22.4	102.6	11.1	102.9	96.0	104.7

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計 数量	輸入数量合計 前年比	チルド数量 数量	チルド数量 前年比	フローズン数量 数量	フローズン数量 前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年　6月	43.7	75.7	16.5	72.3	27.2	77.9
R5年　7月	38.7	74.4	19.4	99.2	19.3	59.5
R5年　8月	45.7	85.3	17.3	88.5	28.3	83.5
R5年　9月	37.0	71.3	15.3	90.2	21.7	62.1
R5年　10月	40.3	82.9	16.8	115.3	23.5	69.1

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り 数量	全国1世帯当り 前年比	全国1世帯当り 金額	全国1世帯当り 前年比
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3
R5年　7月	475	94.2	1,643	91.8
R5年　8月	516	101.6	1,800	91.9
R5年　9月	465	87.4	1,536	89.2
R5年　10月	431	80.9	1,621	91.1

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

暦年	チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
R1年	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年　7月	353.0	278.1	631.1	97.7
R5年　8月	313.3	325.7	639.0	97.1
R5年　9月	390.6	411.7	802.2	114.4
R5年　10月	362.0	474.7	836.7	100.7

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5 価格	和牛去勢A-5 前年比	和牛去勢A-4 価格	和牛去勢A-4 前年比	交雑牛去勢B-3 価格	交雑牛去勢B-3 前年比	乳牛去勢B-2 価格	乳牛去勢B-2 前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年7月	2,517	96.4	2,134	89.8	1,481	95.9	906	87.4
R5年8月	2,421	98.8	2,039	93.6	1,432	95.9	773	88.3
R5年9月	2,493	97.4	2,065	90.5	1,454	97.3	746	77.5
R5年10月	2,519	95.1	2,058	87.9	1,422	93.5	828	79.5
R5年11月速報値	2,647	99.9	2,250	94.7	1,524	101.2	791	70.9

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)